

跡見学園のシンボルである桜の花びらをモチーフに型抜きした外壁と、インタラクティブデッキが交互に重なるファサード。



新世紀のキャンパス

Campus of New Century

# 跡見学園女子大学 文京キャンパス2号館

屋外と調和する透明感あるエントランス。中央画面には、教職員のポータルサイトのお知らせ画面が抽出され学生に提示される。





6-8F吹抜けは、壁面のガラスボードをホワイトボードやスクリーンとして活用できる多目的スペース。

明治8年に跡見花蔭により創立された跡見学園を母体とし、1965年に埼玉県新座市に開学した跡見学園女子大学が、昨年10月、新たに文京キャンパスを竣工した。

同大学は、女性の人格的自立を建学の理念に掲げる文学部の単科大学だったが、21世紀の新しい女子教育の実現に向け、学内にプロジェクトチームを発足、数年にわたる検討を行った。教養大学から「広い教養を土台とする現代社会のニーズにあった学問」を修める大学へ。女性の経済的自立を目指し、2002年にマネジメント学部開設、文学部改組などの改革を行った。

「環境こそすべて。環境が変わることで思考も変わる」と話すのは、山田徹雄跡見学園女子大学副学長だ。新座という落ち着いた環境からか、同大学の学生はおっとりとして競争社会になじまない点があるという。そこで学生の意識改革を促すよう、1・2年生

は新座キャンパスで教養教育を学び、3・4年生は社会と接点を持ちやすい都心の文京キャンパスでハイテク設備による専門教育を学ぶこととし、文京キャンパスには就職拠点としての機能も持たせた。さらに2年修了時には「進級判定」を設け、基礎学力という社会人としての土台が形成されたことを確認しなければ文京キャンパスで学べないようにもした。文京にあった短期大学部閉学に伴う人的・物的資源を有効活用したかったのも理由のひとつだ。

建築コンセプトは『どこでも教場』ユビキタス・ラーニング。各階のDEN、6-8Fの階段式吹抜けなどに、プロジェクター、PC、スピーカー等を内蔵した可動式ワゴンと専用のベンで書き込みができるガラスボードを設置し、学生が自由にプレゼンテーションできるスペースを随所に設けた。これは授業のみが学習ではなく、自立・自律的に学習する社会人を養成するためのものだ。総9階建ての館内は、9Fの屋上庭園・ラウンジのほか、6-8Fのエレガントゾーン、3-5Fのアクティブゾーン、1-2Fのエントランスゾーンの3層構造とし、ゾーンごとにカーペットや教室の椅子の色・カタチを変えるなど、女子大学らしい遊び心も見られる。

改革から6年。文学部とマネジメント学部のシナジー効果も現れ、文学部の就職率が上がったという。実践的なライフデザイン教育として、全学共通の「社会人形成科目」や、マネジメント学部の2年生全員を対象とした「アカデミック・インターンシップ」で社会の有り様を学び、これから2年間をどう過ごすか、その拠点としても文京キャンパスを活用していきたいとしている。



ガラスのスライディングウォールで仕切られる各階のDENにも、ガラスボードと可動式ワゴンを整備。

285人収容の大教室は、柱を含めた壁面すべてにホワイトボードシートを採用。プロジェクター2台を投影し、ハイテク機器を用いた授業が展開される。



都心を見渡せる眺望が“新座より開放感がある”と、学生から好評の最上階ラウンジ。



桜の開花を彷彿させる446席を配置したアトミブロッサムホール。荷物を収納できる空間や内蔵式テーブルなど、女性に配慮した細やかな造作が。

